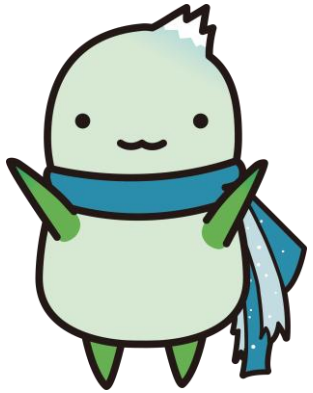
養父市オーガニックビレッジの取組について





養父市イメージキャラクター

やっぷー　　やっぴー

兵庫県養父市

市長　大林 賢一

養父市について

養父市は兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、平成16年に旧４町（八鹿町、養父町、関宮町、大屋町）が合併して誕生。

養父市
YABU city





人　　口	20,120人
世　帯　数	8,892
高齢化率	41.54%
面　　積	422.91k㎡
地域分類	中山間地域

（R8.８.１時点）

養父市の魅力　～観光地～


兵庫県最高峰の山
氷ノ山


県下有数の紅葉名所
養父神社


つなぐ棚田遺産
別宮の棚田


日本遺産
明延鉱山


樹齢1,000年の大桜
樽見の大桜


日本の滝100選に選定
天滝

養父市の魅力　～農産物～



ブランド和牛
但馬牛



八鹿町朝倉地区発祥
朝倉山椒



高原で栽培された大根
轟大根



まぼろしのお米
蛇紋岩米



在来種の青大豆
八鹿浅黄

養父市の一部の地域や農家では、かねてから環境に配慮した農業や関係する取組が行われてきました。



おおや堆肥センター

平成15年４月供用開始



おおや高原

平成2年栽培開始



おおや有機農業の学校

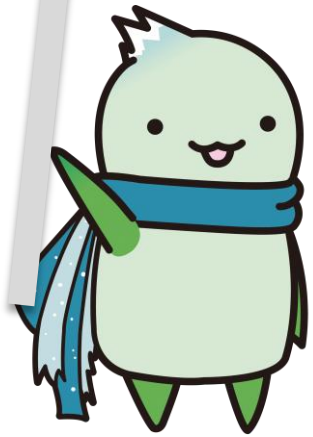
平成23年４月開校

養父市　～オーガニックビレッジの取組①～

令和5年6月
オーガニックビレッジ宣言

令和５年６月
有機農業実施計画の策定
→令和７年３月に計画の更新

令和５年８月
やぶし有機の里づくり推進協議会発足



人と環境とが調和し、養父市の豊かな農業と食を次の時代を生きるこどもたちへつなぐ

養父市　～オーガニックビレッジの取組②～

〇有機農業推進に取り組むNPO法人への支援

〇新規就農者受け入れ環境の充実

〇省力化技術の実証

〇栽培技術講習会

〇親子世代向け食育イベント

栽培技術講習



収穫体験



養父市　～オーガニックビレッジの取組③～

○有機JAS認定補助金（令和６年度時点）

→有機JASの認定者数は兵庫県内３位　割合でいくと１位

○土壌診断補助金

○有機農業の推進に取り組む団体へのイベント企画・研修等補助

○市内や都市部でのイベントにてマルシェなどを出店

○農業フォーラム　など…

伊丹市での直売所出店



地元イベントにてマルシェ出店



学校給食有機野菜使用量

令和４年度（３月末時点）(kg)

ピーマン	123.0
ほうれん草	10.0
にんじん	234.0

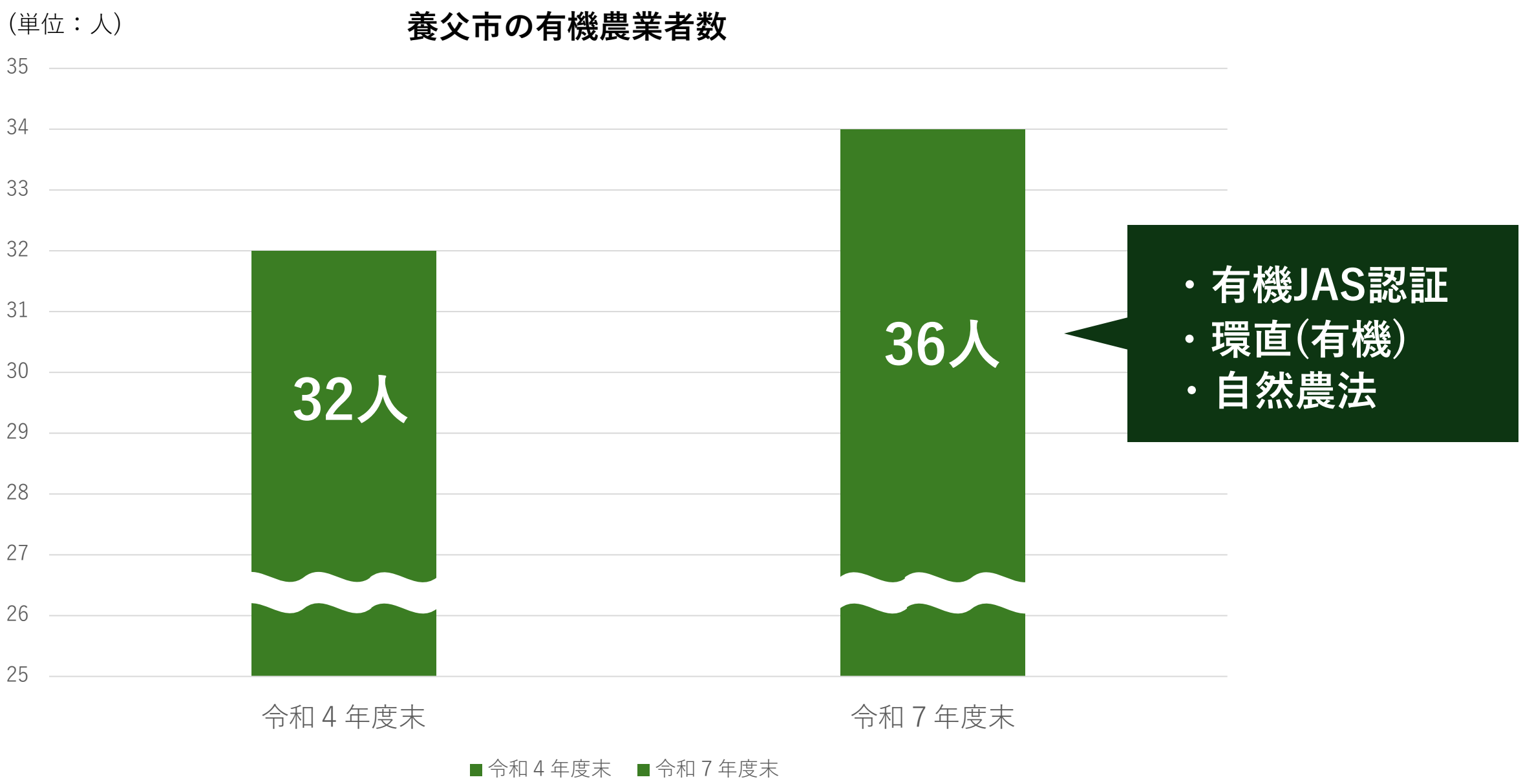
合計：367kg

令和７年度（３月末時点）　(kg)

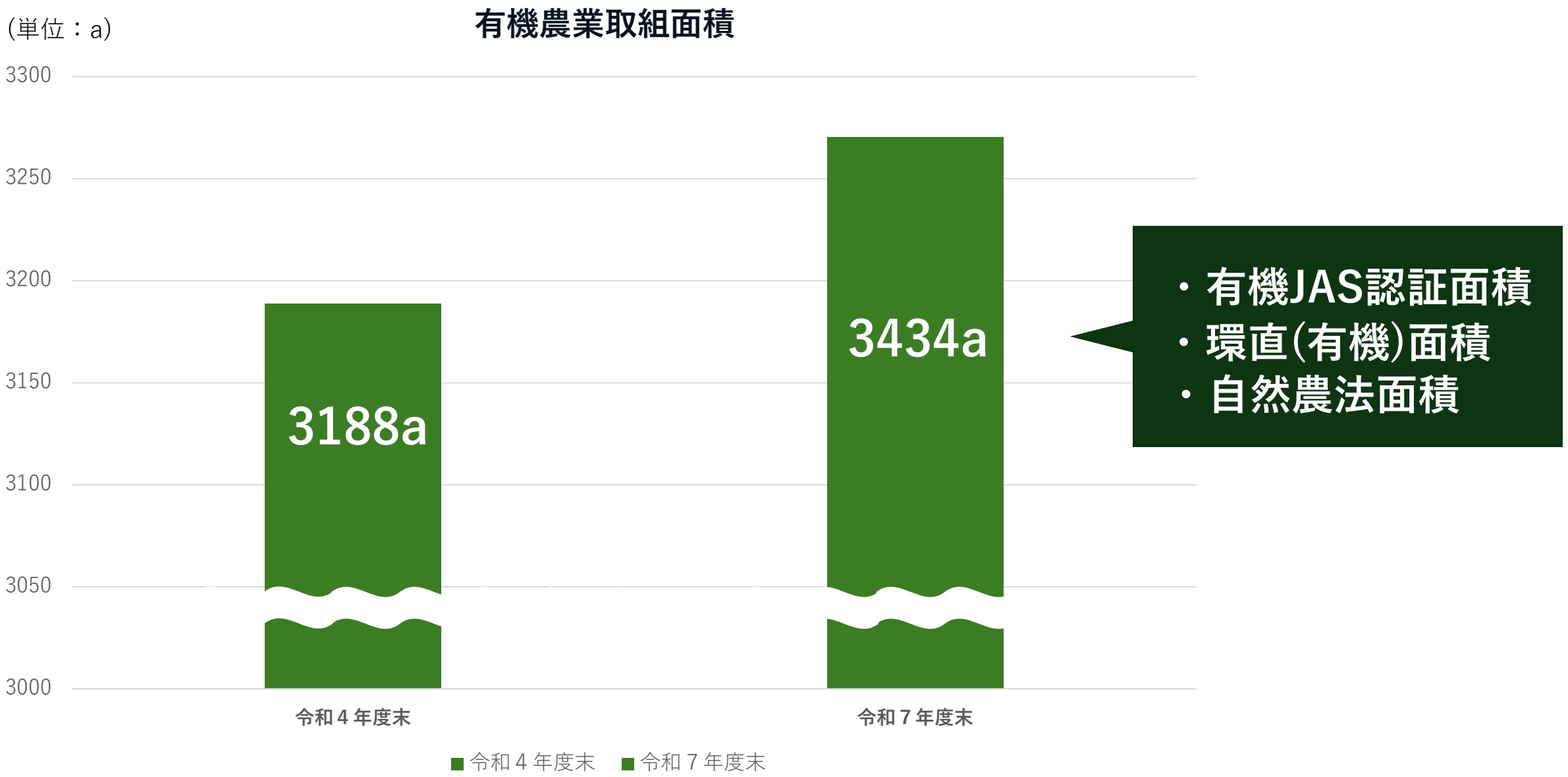
ほうれん草	430	トマト	26.0
きゅうり	24.0	小松菜	115.0
かぶ・小かぶ	154.0	さつまいも	86.0
かぶ(葉)	0.0	菊菜(春菊)	8.0
ズッキーニ	144.0	大根	160.0
たまねぎ	313.0	にんじん	1299.9
ピーマン	222.0	水菜	12.0
なす	162.0	じゃがいも	92.0

合計：3,247.9kg

養父市の有機農業者数


(単位：人)
養父市の有機農業者数
35
34
33
32
31
30
29
28
27
26
25
32人
36人
令和４年度末
令和７年度末
・有機JAS認証
・環直(有機)
・自然農法
令和４年度末
令和７年度末

養父市の有機農業取組面積



- 有機JAS認証面積
- 環直(有機)面積
- 自然農法面積

養父市が有機農業を推進する上での課題

〇消費者への理解醸成不足
〇安定した経営基盤の構築
〇作業量の増加に伴う効率化・機械化の必要性
〇過疎化・中山間地特有の農地維持と担い手不足　etc..

今後の方向性として

〇有機農業を普及させるため、技術支援・経営支援・販路開拓・人材確保・制度整備（予算措置や市独自認証）を総合的に進める
〇学校給食や地域イベントを起点に消費者理解を深め、地元需要と都市部販路の双方で安定的な流通を構築する
〇耕畜連携や堆肥の活用、機械化推進により生産性と品質を高め、次世代の就農者が生計を立てられる産地づくりを目指す



ご清聴ありがとうございました。